

祭りに対する意識が中心市街地のまちづくりに与える影響に関する研究

横浜国立大学 大学院工学府

横浜国立大学 大学院工学研究院

横浜国立大学 大学院工学研究院

横浜国立大学 大学院工学研究院

学生会員 ○嶋田 雄介

正会員 中村 文彦

正会員 岡村 敏之

正会員 王 鋭

1. はじめに

近年、全国の中心市街地において、商業機能の低下、業務機能の低下、人口の郊外流出などをはじめとした中心市街地の衰退が大きな問題となっている。特に地方都市においては問題が顕著であり、対策を要している。従来、中心市街地は「まちの顔」であり、都市としての魅力を形成していたが、著しいモータリゼーションの進展や大型商業施設をはじめとする各種都市機能の郊外流出など、複数の要因から中心市街地の衰退が考えられる。中心市街地活性化へのアプローチとしては、中心市街地に居住する人を増やしたり、また中心市街地で快適に過ごせる環境を整えたり、また中心市街地の吸引力を高める、といったさまざまな視点からの対策が考えられる。中心市街地活性化の手法としてはイベントを用いている商店街が多く、にぎわいを取り戻すにはイベントによるものが一番効果的であるとされている。多くの人はきっかけを望んでおり、実際に中心市街地や商店街の中でのイベントや祭りは重要な手法のひとつとして位置づけられている。

本研究を進めるにあたり、まず祭りの特性分析を行った。祭りの事例整理により、大きく5つに祭りを分類し、各分類の効果の大きさを表1に明示した。地域愛着、街のにぎわい、経済効果、集客力、地域交流の5つの効果で示すとき、観光、宗教、風土、地域、商店街の5つの種類に分類することができる。

表1 祭りの分類

種類	効果	地域愛着	街のにぎわい		経済効果	集客力	地域交流
			短期	長期			
観光	△	○	○	○	○	○	△
宗教	△	△	×	×	×	△	△
風土	○	△～○	×	×	×	△～○	△
地域	○	△	△	×	△	×	○
商店街	○	×	△	△～○	△	△	○

○:大 △:中 ×:小

まちは人が集まり、交流する場であるという考えのもとで、祭りには多くの効果が期待できるが、一
キーワード：祭り、イベント、中心市街地活性化
連絡先：〒240-8501
神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
Tel：045-339-4039

方で、大規模な祭りの場合にぎわいが一過性であること、予算の問題等がある。事実イベントでにぎわいをおこした商店街の問題点として、マンネリや、常に新しいイベントを考える必要性、費用負担の問題を指摘する声は多い。しかし、商店街と参加市町村、行政などが協力することにより、この問題は少なからず解決できる。

上記のような背景を受け、本研究においては、中心市街地の活性化に影響を与える可能性が高いであろう、表1の分類中の地域・商店街をベースとした地域密着型の祭り・イベントを対象として、中心市街地および祭りへ参加実態の把握と、意識の把握を行い、今後の中心市街地のまちづくりに与える影響に対する知見を得ることを目的とした。

2. 分析手法

本研究では、中心市街地が衰退しており、その地区で祭りが行われている地域として、岐阜市中心市街地と、道三まつりを対象とした。



写真1：シャッター街化が顕著に見られる岐阜市柳ヶ瀬



写真2：道三まつり時の岐阜市柳ヶ瀬でのマーケット

岐阜市は、中心市街地活性化法に基づく中心市街地活性化基本計画を策定し、平成19年5月28日に内閣総理大臣の認定を受けた都市のひとつである。岐阜市の中心市街地は、大きく分類して「岐阜駅周辺」と「柳ヶ瀬」の二つの地域で構成される。このうち岐阜駅周辺は、優れた立地条件を活かした都市基盤整備の進展に伴い、活性化の兆しが見え始めている。しかし、柳ヶ瀬周辺に関しては、小売業商品販売額や歩行者通行量の減少に歯止めがかからない状況となっている。今回の調査では中心市街地の中でも特に柳ヶ瀬周辺を対象とした。道三まつりは1972年から30余回の歴史があり、毎年4月の第1土曜と翌日曜に開催されており、例年2日間で20万人の人出がある。知名度も高く、祭りのあり方次第で中心市街地の活性化が十分に期待できることからこの祭りを対象とした。

本研究では、中心市街地のまちづくりを考える上で中心市街地の利用実態が重要であると考え、それと関係があると推測できる祭りに対する意向を把握するために、中心市街地の利用頻度・祭りに対する意識および参加頻度等を設問し、アンケート調査を実施した。なお、アンケート調査は、少なくとも中心市街地の利用が期待でき、加えて、対象とする祭りへの参加もしくは祭りの知識が期待できそうな岐阜市民および周辺住民を対象とした。

主な設問項目	中心市街地の活気の有無に関する意識
	中心市街地の利用頻度
	祭りの認知度
	祭りへの参加頻度
	祭りの活気の有無に関する意識

3. 利用意識・利用実態調査の分析結果

調査結果として、図1より祭りへの高頻度参加者ほど祭りに活気があると感じており、図2より祭りへの高頻度参加者は比較的中心市街地を利用していることがわかった。また図3より祭りに活気があると感じている人は比較的中心市街地を利用していることがわかった。このことから祭りへの高頻度参加者および祭りに対して好印象を持っている人は地域と密着した生活をしていることが示された。

以上より、「本研究で設定した対象地区での中心市街地のまちづくりを考える上で、重要であると考えられる中心市街地の利用頻度と祭りに対する意識や参加頻度には密接な関係があり、これらの関係は軽

視できないということが推測できる。

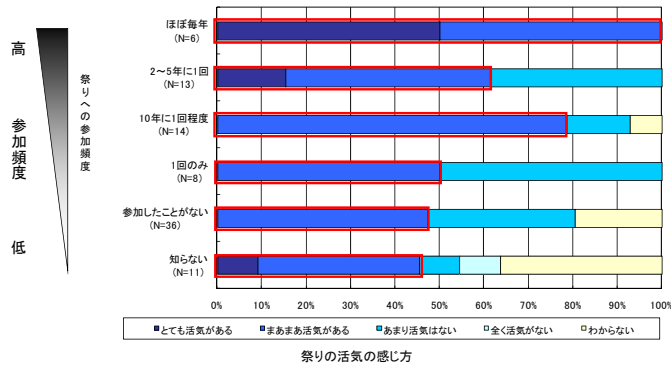


図1 祭りへの参加実態及び意識把握

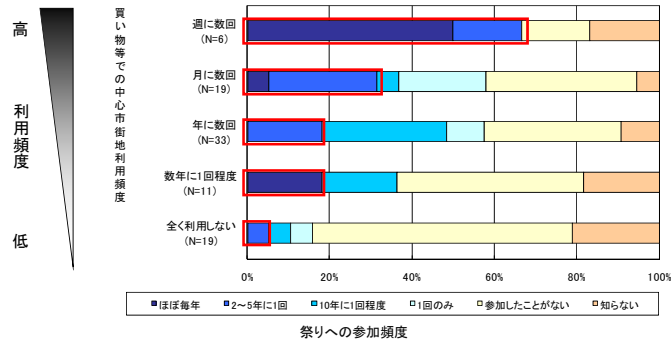


図2 中心市街地の利用実態及び祭りへの参加実態

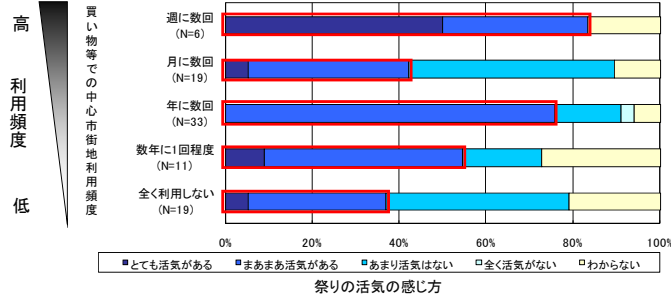


図3 中心市街地の利用実態及び祭りへの意識把握

4. おわりに

分析結果から、中心市街地と祭りに対する意識には相関関係があり、中心市街地活性化を考える上で、祭りの運営の重要度は高いということがわかった。イベントは長い年月をかけて永続した地域住民だけでなく周辺地域からの集客が見込めるようになれば、それを核として活性化が可能である。

参考文献

1) 長尾樹偉・藍澤宏・斎尾直子：地域社会形成における祭りの有効性に関する研究－阿波踊りを対象として－，日本建築学会大会学術講演梗概集東北支部，2009

2) 高秀賢史・高岡耕子・永井護：来訪者から見た祭りの便益に関する比較分析，都市計画論文集，No.39-3，pp.246，2004